

日本碍子株式会社

名古屋事業所熱田地区／愛知県名古屋市

日本ガイシは1919年の設立以来、独自のセラミック技術を駆使し、社会課題を解決する画期的な製品を数多く提供してきた総合セラミックメーカーです。

エネルギー、モビリティ、IT、産業分野を事業の柱とし、世界20カ国以上で活動しています。

持続可能なエネルギーインフラを構築する大容量蓄電システムや世界のIoT化を支える小型・薄型のリチウムイオン二次電池を提供しているほか、自動車排ガス浄化用セラミックスの大手メーカーとして、地球環境への負荷低減に積極的に取り組んでいます。

日本ガイシは、カーボンニュートラルとデジタル社会の2分野に革新的な製品やサービスを提供し、新しい価値の創造と持続可能な社会の実現に貢献していきます。



外観

補助事業の概要

- 導入設備：停電対応型CGS 1,000kW×1台
- 補助金額：114,740千円(補助率1/2)
- 災害時の設備用途：[発電] 本社棟1階、2階等、ロビー、会議室、共用部(コンセント利用)

対象施設	避難所面積	供給方式
帰宅困難者受入施設	4,574㎡	中圧

事業者様の声

補助金を用いた設備導入の経緯と効果

日本碍子株式会社 GEセンター 渡邊 大吾 様

BCPを検討する中で弊社では、災害時に1週間の停電と復電後の長期間の計画停電を想定しており、災害に強い中圧Aのガスを使用したコージェネレーション設備を有効なBCP対策として導入する事を決めました。

機器選定をしていく段階でガス会社等から補助金の情報を得て、補助金の制度(複数年)と設備投資のタイミングがマッチし、イニシャルコストを抑えて設備導入が出来る為、補助金応募に至りました。

当社は元々自治体と災害時の応援協定は結んでいましたが、コージェネレーション設備を導入する事で帰宅困難者を受入れ、さらに地域貢献が出来るという提案を自治体にすると、主要な駅の近くで一般企業が避難所となる事を非常に歓迎されました。

今回の設備導入に際し、以前はガスも電気と同様に災害時は使用できないイメージでしたが、都市ガスの方が電気より信頼性が高い為、停電対応型の都市ガス設備による発電を災害時の有力なBCP対策としています。

災害時にも貢献する施設の役割とエネルギーシステム

停電時の設備活用イメージ



避難スペース(一例)

1階 エントランス



1階 ロビー



2階 大会議室

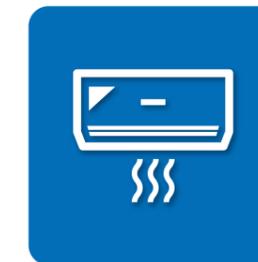


など

災害時にも避難所等で活用可能な設備等



照明



空調



コンセント

協定概要

名古屋市とは「帰宅困難者の受入に関する協定」を締結(令和5年1月)。災害の発生時に当該施設を帰宅困難者受入施設として利用することについて定めております。